

# そだちサポートプロジェクト

## 令和7年度 第2回 そだサポ研修&交流会

令和 7年 9月19日（金） 18：30 ～ 20：00

### ○ 参加事業所（事業所数）

#### 奄美市（4）

ヒマワリクラブ  
ヒマワリ就学塾  
にこびあ  
のぞみ園

#### 瀬戸内町（2）

ここ園  
みらいはうす

#### 龍郷町（2）

愛かな  
聖隷かがやき

#### 与論町（1）

ほのぼの

#### 鹿児島（4）

おひさま  
スクラム  
のびのびパレット  
もりのね



#### オブザーバー（4）

住田氏（国分西小）、増永（大島特別支援学校）、久川氏（大島特別支援学校徳之島教室）、河合氏（鹿児島大）

#### 講師/事務局（5）

今村氏、高橋氏（鹿児島大）、福崎、恵島、向井（びあリンク奄美）

合計 63 名

### 1.各事業所自己紹介

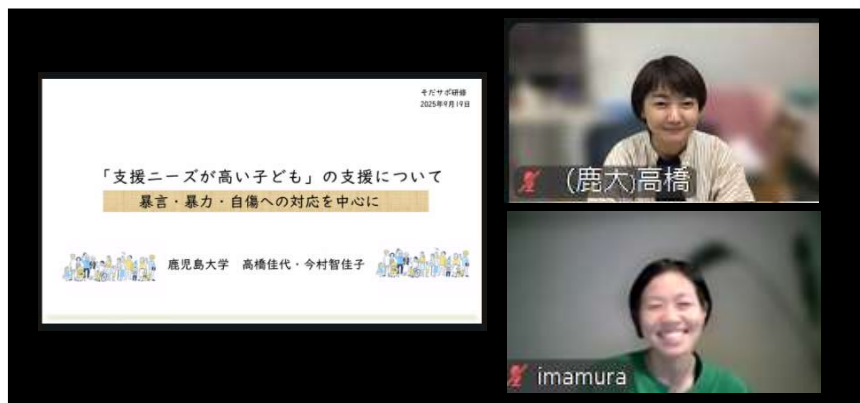
### 2.ミニ研修（別紙資料）

#### 「支援ニーズが高い子ども」の支援について②

～ 暴言・暴力・自傷への対応を中心に ～

鹿児島大学大学院  
臨床心理研究科

准教授  
高橋 佳代 氏  
准教授  
今村 智佳子 氏



### 3.交流会

【1G】

- 愛かな
- のぞみ園
- ことの
- ほのぼの
- 住田氏（国分西小）
- 増永氏（大島特支校）
- 河合氏（鹿児島大）



【発表：ほのぼの】

- ・研修については、「わかるわかと共感する意見が多かった。」
- ・みんなが困っていることとして、「他の利用者さんを叩いてしまう場面」でどう対応しているか、ということ話を話した。
- ・「子どもたちが悪い言葉を覚えるのが早い」のはなぜだろう？という疑問も出された。

○「他の利用者さんを叩いてしまう」場面の対応について

- ・まずは大人が間に入って、叩かれている子が大きな被害を受けないように対応している、という声が多かった
- ・言葉で気持ちが言える子には、「じっくり話を聞く時間を作る」、言葉が出てこない子には、「気持ちを代

○「悪い言葉使い」場面の対応について

- ・子どもたちが悪い言葉を使うと、周りの大人や子どもがすぐく反応してくれるから、それが「学習」になってしまっている子もいるんじゃないか、という意見が出された。
- ・今回の話を参考に、これからの支援に活かしていきたいという結論になった。

【2G】

- にこびあ
- ヒマワリ就学塾
- みらいはうす
- おひさま
- スクラム
- 久川氏（大島特支徳之島）



【発表：にこびあ】

- ・普段の支援で困っていることについて話し合った。（高橋先生が入ってくれたので、相談もさせてもらった）
- ・先生が、難しい支援の状況に対して共感の言葉を伝えてくれたことが支援者として救われる気持ちになったという話になった。
- ・自分たちが共感してもらった経験を踏まえて、子どもたちに対して「そうだよね」と共感してくれる大人
- ・研修での事例を参考に、それぞれが担当している子どもの顔を思い浮かべながら、日々の支援について充実した話し合いができた。

【3G】

- 聖隷かがやき
- ここ園
- ヒマワリクラブ
- のびのびパレット
- もりのね
- 向井（ぴあリンク奄美）



【発表：ここ園】

- ・今回の研修を受けて、日頃からの支援のあり方について話し合った。
- ・「普段からの関わり」「落ち着いている時に話すこと」「行動の背景や、その子の特性・気持ちを理解して、みんなで環境を調整していくこと」などが大切だということを共有することができた。

○「中学生男子がパンツを履かずに活動してしまう」という事例について。（以下今村先生からのアドバイス）

- ①「アムアム」「盛盛」「脱いだり」「お家では全部脱いでいる」という話から、「他の場所でも安心して過ごさせているということだね」と、ポジティブに捉える視点も大切。
- ②リラックスできる時間を確保したり、新しいことへの移行が難しいということを理解して関わっていくことも大事。
- ③「これが変わるチャンス」と前向きに捉える。

※保護者の方にうまく伝えられない時は、専門家の力を借りることも良いという意見も出た。

※小さい子どもの「順番のこだわり」についても話したかったが時間が来てしまい話せなかった。